

《難病と倫理研究会》 第一回 京都セミナー

「生きる権利／死ぬ権利／病者の権利」

主催：《難病と倫理研究会》京都セミナー

後援：難治性疾患克服研究事業「特定疾患患者の生活の質(QOL)の向上に関する研究」班

講師の著書紹介



死ぬ権利 (単行本) 香川 知晶 (著)

内容(「BOOK」データベースより)人工呼吸装置をはずすのは是非か。「死」という極めて個人的な問題を権利として主張する激しさと痛切さ。アメリカの経験を振り返る。

内容(「MARC」データベースより)人工呼吸装置をはずすのは是非か。死という極めて個人的な問題を権利として主張する激しさと痛切さ。クインラン事件からクルーザン事件まで、主に裁判事例を中心に、米国での治療停止をめぐる問題の推移を追う。



病いの哲学 (新書) 小泉 義之 (著)

内容(「BOOK」データベースより)病み衰えて末期の状態にある人は死ぬほかない—。

◆ 難病に新たな境地を開拓する研究会のご案内

昨今の難病を取り巻くさまざまな話題について、臨床あるいは哲学・倫理学、社会・心理学等の視点から、難病領域に新たな地平の開拓を試みる研究セミナーのお知らせです。

対象者は難病研究に関心のある方すべてですが、座席数に限りがあります。ご参加をご希望の方は下記(右側)フォームにご記入の上、メールにて事前にコーディネーターの川口までお申し込みください。

締め切りは平成17年2月1日、席数数は36席です。満席になり次第、締め切りさせていただきます。



◆ 日時：平成19年2月10日(土) 13:30～18:30

◆ 場所：三井ガーデンホテル京都三条 会議室「烏丸」

<http://www.gardenhotels.co.jp/sanjo/index.html>

〒604-8166 京都市中京区三条通烏丸西入御倉町80番、TEL 075-256-3331 FAX 075-256-2351

地下鉄烏丸線「烏丸御池」駅より徒歩1分

◆ 参加費：無料(定員：36名)

* できれば講師の著書をお読みの上、ご参加ください。

◆ プログラム

コーディネーターから研究会の趣旨説明(13:30～)

1、中島 孝 (13:45～14:35)

「難病、難治性疾患における呼吸ケアから緩和ケア—現実と課題—」

2、香川 知晶 (14:40～15:30)

「カレン・クインランの母親の回想をめぐって—『死ぬ権利』、落穂ひろい—」

コーヒーブレイク (15:30～15:45)



3、小泉 義之 (15:45～15:55)

「保険でも扶助でもない道：「難病」の事例にも触れつつ」

4、質疑応答 (16:35～18:00)

* 研究会の後、小一時間ばかり懇親会を予定しています。参加ご希望の方はお申し込み時にお申し込みください。



(東寺のイメー)

《お申し込みフォーム》

メールに下記の記載事項を貼り付けて、お申し込みください。

氏名：

所属先：

連絡先：

懇親会参加希望：
します しません

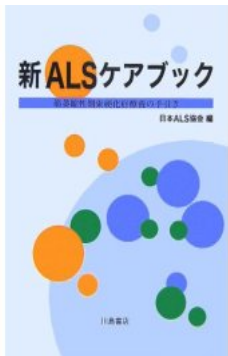
* お申し込みアドレス
[Email:aji-sun@nifty.com](mailto:aji-sun@nifty.com)

* コーディネーター：
川口有美子
立命館大学大学院先端総合学術研究科後期博士課程、
日本ALS協会理事／NPO
法人さくら会理事、
<http://www.arsvi.com/0w1wgcymk.htm>



死の哲学はそう考える。しかし死にゆく人にもその人固有の生命がある。死の哲学はそれを見ようとして、生と死の二者択一を言い立てる。ソクラテスもハイデッガーもレヴィナスも、この哲学の系譜にある。そのような二者択一に抗すること。死へ向かう病人の生を肯定し擁護すること。本書はプラトン、パスカル、デリダ、フーコーといった、肉体的な生存の次元を肯定し擁護する哲学の系譜を取り出し、死の哲学から病いの哲学への転換を企てる、比類なき書である。

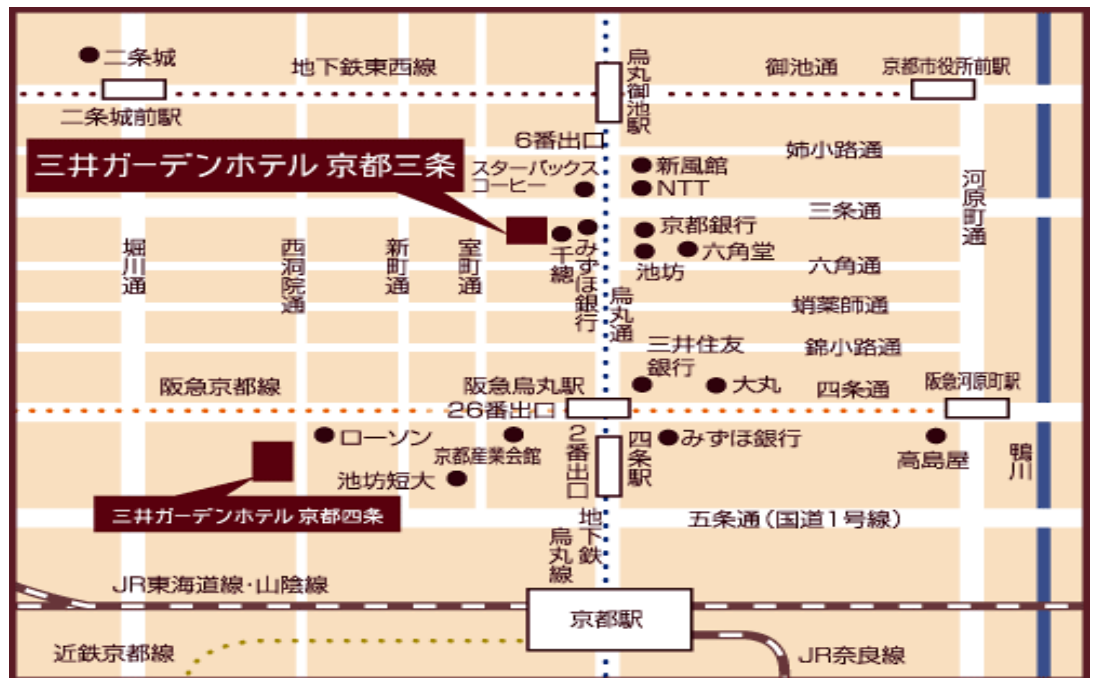
内容(「MARC」データベースより)死には美醜など、ない。人を死へと追いやる「死の哲学」。これに抗し、不治の病いであったとしても、肉体的な生存の次元を肯定し擁護する哲学の系譜を取り出し、死の哲学から「病いの哲学」への転換を企てる。



新ALSケアブック—筋萎縮性側索硬化症療養の手引き(単行本)
日本ALS協会(編集) 中島孝 第三章「心理的ケア」

内容(「MARC」データベースより)原因も治療法も究明されていない難病、ALS(筋萎縮性側索硬化症)とはどのような病気なのか。治療研究の現状から心理的ケア、コミュニケーションの問題、リハビリテーション、介護支援制度などの療養環境まで解説する。

主催: ≪難病と倫理研究会≫ 京都セミナー
後援: 難治性疾患克服研究事業「特定疾患患者の生活の質(QOL)の向上に関する研究」班



◆講師紹介

◇香川知晶: 山梨大学大学院医学工学総合研究部教授

http://erdb.yamanashi.ac.jp/rdb/A_DisInfo.Scholar?ID=0DDD04816DC3B568

医学部 精神神経医学・臨床倫理学講座

専攻: 哲学・倫理学

* 主な著書

『死ぬ権利——カレン・クインラン事件と生命倫理の転回』2006年10月、勁草書房

『生命倫理の成立—人体実験・臓器移植・治療停止』2000年9月、勁草書房

<http://www.junkudo.co.jp/view2.jsp?VIEW=author&ARGS=%8D%81%90%EC%81%40%92m%8F%BB>

「サイボーグ医療と生命倫理」立花隆ゼミSCIへの投稿記事 <http://sci.gr.jp/sci/>

◇小泉義之: 立命館大学大学院先端総合学術研究科教授

<http://www.arsvi.com/0w/kizmysyk.htm>

専攻: 哲学・倫理学

* 主な著書

『病いの哲学』2006年4月、ちくま新書 <http://www.arsvi.com/b2000/0604ky.htm>

『「負け組」の哲学』2006年7月、人文書院 <http://www.arsvi.com/b2000/0607ky.htm>

『吊いの哲学』『生殖の哲学』『ドゥルーズの哲学』、『兵士デカルト—戦いから祈りへ』『レヴィナス人は何のために生きるのか』など。

◇中島 孝: 独立行政法人国立病院機構新潟病院副院長 <http://www.niigata-nh.go.jp/>

専門: 神経内科学(神経筋疾患、脳卒中の診療、画像診断、遺伝子診断、緩和ケア、Bioinformaticsなどの臨床研究)「特定疾患患者のQOLの向上に関する研究班」主任研究者

http://www.nanbyou.or.jp/what/nan_kenkyu_121.htm

* 主な著書

『難病患者等ホームヘルパー養成研修テキスト』(総監修、中島孝)改定第6版、社会保険出版社、東京2004
『新ALS(筋萎縮性側索硬化症)ケアブック』第三章心理ケア、p25-39、日本ALS協会編集、2005年12月、東京 川島書店 <http://www.amazon.co.jp/gp/product/4761008288>

* 最近の論文

樋口真也、中島孝、2006『ALS患者さんの呼吸療法の誤解を解くために』『難病と在宅ケア』12(7)7-11、2006
中島 孝2006「QOL向上とは、難病のQOL評価と緩和ケア」『脳と神経』58(8):661-669、

——2006「ALSにおける呼吸療法—総論」『神経内科』64(4):330-386、

Nakajima T. Individual ALS care in the Japanese 'nanryo' care model: comparison with palliative care approaches in achieving best quality of life, *Amyotrophic Lateral Sclerosis*. 2006 (Suppl 1); 7: 45-47

——2005「神経難病における遺伝子検査とインフォームドコンセント」『神経治療学』22(6):751-756、

——2005「難病ケアと問題点—QOLの向上とは」『臨床神経学』45:994-996、